

第2回安中市総合計画審議会会議録

(以下、敬称略)

- 【日 時】 令和5年8月1日(火) 午後2時00分～4時10分
- 【場 所】 市役所本庁第201会議室
- 【出席委員】 15名(小竹委員、坂田委員、萩原委員、伏田委員、矢野委員、高橋委員、神宮委員、武井委員、大塚委員、本多委員、野澤委員、緑川委員、井上委員、小坂委員、竹下委員)
- 【欠席委員】 3名(佐藤委員、長野委員、青木委員)
- 【事務局】 5名(企画政策部長、政策・デジタル推進課長、政策・デジタル推進係課長補佐、担当係員1名及びジャパン総研1名)
- 【配付資料】
- | | |
|------|-----------------|
| 資料1 | 審議会次第 |
| 資料2 | 第3次安中市総合計画骨子(案) |
| 参考資料 | 審議会委員名簿 |

【詳 細】

1 開会 《政策・デジタル推進課長》

2 会長挨拶

3 新任委員委嘱

4 協議事項

(会長が議事録署名人として矢野委員と高橋委員を指名)

(1) 第3次安中市総合計画骨子(案)について

<説明>事務局

- この骨子案については、昨日、安中市総合計画策定会議という庁内の職員で組織する会議があり、そちらで決定したものを本日提示している。
- 資料2をご覧いただきたい。はじめに、先週、事前にメールで配布したものと、本日配布の資料の大きな違いは、先週までは、黄色のマーカーの箇所に候補が複数あった。本日配布のものは、昨日の策定会議で、案を固めたものを本審議会に示しているので、本日の資料で協議を進めさせていただく。
- まず、表紙は、総合計画の愛称について示している。愛称は、「あんなか まちづくりビジョン2024」とする。ここでいう、まちづくりとは、ハード面、ソフト面合わせた、総合的なものとしてのまちづくりの意味合いを表している。
- 次のページでは、市長インタビューを掲載する。内容は、今後検討する。
- 次のページは、目次を記載する。
- 本編の1章は総論である。まず、1計画の策定についてである。3ページ(2)計画の役割と特徴の

項目において、2段落目、人口減少が進む中、地域資源を活かした活力の創造と持続可能なまちづくりを計画的に実現するため、「安中市デジタル田園都市構想総合戦略」を、本計画と一体で作成する、としている。こちらは、前回総合計画を説明した内容を踏まえている。

- また、最後の段落で、「総合計画の正式名称は「第3次安中市総合計画」とするが、市民とともに創りあげ、より親しみを感じるよう、愛称を「あんなか まちづくりビジョン 2024」とするものである。」と記載し、今回の総合計画では、愛称を設定する。
- 次に2.計画の構成と期間については、前回の会議でも説明したが、安中市では、総合計画を条例に基づき、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成する。また、期間は、基本構想を8年間、基本計画を前期・後期に分けた4年間ずつの構成とする。
- 次に3「総合計画」と「デジタル田園都市構想総合戦略の統合」については、こちらも前回の会議で説明したとおりである。
- 6ページ、4.社会情勢の変化と本市の課題であり(1)人口構造の変化、(2)社会の変革、(3)暮らしの変化、(4)地方自治の変革という項目でまとめている。
- 次に10ページ、2章は人口ビジョンである。今回、総合計画の策定にあたり、将来人口を推計した、人口ビジョンを改訂する。こちらの内容は、次回の会議で示す。
- 続いて、12ページからは、3章、基本構想である。
- 13ページで、まちの将来像を示している。将来像は、「住んで良かった 豊かで魅力ある元気な 新しいあんなか ～さらに、光り輝くまちへ～」とする。まちづくりを進めることによって、その結果、「住んで良かった」と実感してもらいたいと考えている。
- 同じページで、まちづくりの基本目標を定めている。(基本目標1～7を読み上げる)
- 基本目標はこのように7つ掲げているが、1～7について優先順位はない。どれも大事な目標であり、すべてを進める。
- 次のページ以降で、各基本目標の説明を行っています。(基本目標の説明を読み上げる)
- 次に3の都市整備の構想を記載する。こちらは、現在策定中の都市計画マスタープランと整合性を図り記載する。
- 17ページからは、4章、基本計画である。
- 18ページでは、安中市デジタル田園都市構想総合戦略を位置づけ、それを重点プロジェクトとする。重点プロジェクトは現行の「第2期安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「あんなか再起動プロジェクトの事業」を包含して作成する。(重点プロジェクト1～5を読み上げる)
- 19ページは、重点プロジェクトの記載方法の例示である。このようなページが続くこととなるが、内容については、今後作成する。
- 20ページでは、先ほど説明した、基本目標1～7について、基本目標ごとに更に詳細な基本施策を設定する。
- 21ページからは、基本施策1-1から順番に施策の内容を説明するものである。こちらもこれから作成する。
- 以上が、第3次安中市総合計画の骨子案の説明となる。
- この骨子案を基に、今後素案という形で、計画の全体の作成を進める。
- こちらについて、審議をお願いしたい。

<協議>

会長	まず、表紙の愛称、基本目標にスペースがあるが、今後意味合いを検討した方がよい。 その他、皆様の立場から様々な意見をお願いしたい。
委員	事業主やサラリーマンなど、様々な人がいる中で、まちづくりへの考え方はそれぞれ違う。難しいところがある。 大きい団地で空き家も出てきているので、人口を増やすために使えばよい。人が増えるために何をするのがよいのかということで、やることを考えていく必要がある。
委員	高齢者福祉で、今後は自助・共助が重要になる。元気な高齢者が高齢者を支える視点が必要である。それと地域で高齢者を支える視点が必要である。 今後できる西毛広域道路は安中市にとってチャンスであり、新駅ができれば、若者も集まり、人が増えると考ええる。それにより、子育て支援も前進する。
委員	市民アンケートをみると公共交通が問題になっている。今後の公共交通については、施設と施設を結ぶという視点だけでは足りない面もある。住民の希望、利用という面から連携して進めていく必要があると考える。
会長	公共交通を「欲しいか」の質問には、「ほしい」と答えるが、「乗るか」の質問には、「乗らない」と答える。バス路線など、公共交通が本当に利用されるものにする必要である。また、高齢者が、バスに乗るには体力が必要である。
委員	基本施策1-1、結婚・出産は本来別なものであるもので、分けた方がよい。
委員	実施計画について議論しないとのことであるが、疑問に感じる。 デジタル田園都市構想について、「誰一人取り残されない」とある。国の考えを市の施策に当てはめると無理があるのではないかと。 将来人口推計を提示していただきたい。人口減は避けられないのであるから、人口の動向からどのようにまちづくりを進めていくか考える必要がある。 市民アンケートでは、医療、公共交通について満足度が低いと、骨子からはそこに対する対応が見えてこない。
会長	人口推計については、どうなっているか。
事務局	社人研の推計では、2060年の人口が、29,000人程度となっている。
委員	物流では2024年問題があるが、2024年を見据えた目の前の問題解決に向けた、計画なのか、2060年という長期を見据えた計画であるのか明確にする必要がある。 市民に意見を聞けばたくさん出てくるので、それを積み上げて計画にするのは難しい。数十年先の安中市を想像し、何年までに何をするのかを明確にし、市民がやること、行政がやることを明確にする。 2024年問題では、生活物資の35%程度が届かなくなる。間近な問題であり、外国人の雇用など対策が必要である。 実施計画や総合計画などの進捗を公開して欲しいということは以前も要望したことがある。実際どうなったかは重要である。

会長	計画のスパン、いつをターゲットにするかは、重要である。 行政サービスは限界に来ているので、市民の努力は不可欠である。ある意味、昔の日本に戻ると いう感覚である。
委員	「デジタル田園都市構想」という言葉はいつまであるのか分からないが、公共サービスの担い手 が不足していく中で、デジタルの活用は避けられないものである。 また、デジタルは、目的ではなく、手段である。有効に働く分野もあれば、そうではない分野もあ る。メリハリをつけ、効果的に進める必要がある。 災害対策は、今後重要となるので、自助・共助の面からも進める必要がある。平時から行政や企 業などの関連機関が連携しておくこと重要である。
会長	確かに、デジタルの活用は生活に溶け込んでいる。 デジタル化は効果的に進めることや高齢者が利用しやすいようにする。
委員	農業の分野もとても大切である。農業の振興では、市と農協の連携が重要であるが、あまりでき ていないので、連携の強化を期待する。
会長	市では農業法人は怎么样了。
委員	新規就農の農業法人があるが、販売力の面など厳しい状況となっている。
委員	農業法人などは、国の補助があるが、補助の後、自立ができず厳しい状況になる傾向がある。自 治体が一緒になって10年くらい支えることが望ましい。
委員	私自身養豚業をやっている。事業者が補助金のことを勉強して、申請できるようになることも重 要である。制度にいつでも対応できるよう柔軟に経営していかなければならない。 外国人について、自動車免許を取得させている。そうしなければ、運送の問題も解決できない。 外国人の永住も増えることが予想され、住宅などを用意している。
委員	将来像の期間はいつなのか。
事務局	計画期間が8年間で、8年のビジョンである。
委員	市の魅力の発信とあるが、どんな方法で、どんなことを発信するのか。今後具体的にしてもらいた い。 私自身の経験として、高崎では保育園が見つからなかったが、安中では見つかった。子育て世代 の魅力として発信できるとよい。
会長	情報発信について、行政の情報発信の強化とは、どのようなことなのか。今後検討してもらいた い。
委員	安中市に移住してきた二家族を取材したことがあるが、地域の助け合い、人のつながりが強く、 住み心地がよいと聞いた。 基本目標、重点目標など、紙面としてまとまりをもって発信できると考える。さらに、50 年先、 100 年先のビジョンを、冒頭の方に持ってくると目を引くものになる。
委員	人口が減少する要因としては、子どもたちが成長すると当たり前のように、市外に出て行ってしま うことだと感じる。一方で、安中市に移住してくるのは、勤務先が安中市であるなど、市に魅力 を感じて移住してくる人は少ないのではないかと。産業を盛んにして働く場所を増やすことが人口増 につながる。

	また、交通などに不便を感じて育った子どもたちは、一度出ていくとなかなか戻ってこない。
委員	この計画が実行され、少子化対策が進むことを期待したい。 住みやすいまちとするには、例えば日常の買い物が行われるようにするべきである。さらに、人が集まる遊園地をつくるなどが考えられる。
委員	13 ページの基本目標では、少子化対策・子育て支援は、一番上にあるが、18 ページの重点プロジェクトでは、雇用が一番上になっていて、子育てが3番目であるが、理由はあるのか。
事務局	重点プロジェクトは、国の「デジタル田園都市構想総合戦略」の順番に準拠している。
委員	重点プロジェクトにおいても、子育て施策が上の方が、整合性がとれてよい。 また、9ページのワークショップは、課題を抽出するためにあるのか。
事務局	今回の計画では、斬新で読んでもらえるものにするということで、コラム的なものを掲載し、読んでいく中で興味を持っていただくためのページとなっている。
委員	市民アンケートは、年齢が高い人の意見が中心となっているので、若い人の意見を取り入れるためには重要である。
会長	重点プロジェクトの順番は、市が重要だと考える順に変えた方がよい。
委員	限られた予算、人員の中で、全ての基本目標、基本施策を実行するのは難しいのではないかと。優先順位をつけると良い。 個人的ではあるが、住居を転々としてきた中で、安中市は自然が豊かであるなど住みやすいまちだと感じる。そのことが読む人に伝わってほしい。
委員	公共交通ごとに異なる役割や機能を組み合わせて、公共交通を利用することが難しい高齢者や学生などにとって使いやすい公共交通システムを築いていただきたい。
委員	公共交通に関する調査をしたことがある。これによると、学生や通院の高齢者の利用が多いことが分かったが、バスと電車の接続が悪い状況であることが判明した。それに対応するための公共交通の改善も行ってきた。 「デジタル田園都市構想」が地方でも成功するかについては、疑問を感じる。しかしながら、デジタル化の推進は必要である。
会長	公共交通の取り組み事例としては、武蔵野市のバス「ムーバス」のようなものもある。
委員	新しい公共交通計画を策定しているところだと思う。必要な政策は、計画を待たずに積極的に進めてほしい。 地元でボランティアタクシーを計画した。コロナで、中止していて、今後再開の予定ではあるが、自助・共助の取組の例である。
事務局	都市計画マスタープランの見直し、交通網の計画など同時進行で進めているが、総合計画が最初にでき、最上位計画となる。本日の委員の意見はすべて考慮し、網羅的に進めていくことになる。

(2) その他

会長	意見のある方は、事務局へメール、電話等で連絡していただきたい。 以上で、協議を終了とする。
----	--

5 その他

- 今後の会議は、10月13日（金）午後2時から、11月29日（水）午後2時から、1月22日（月）午後2時からの予定とさせていただきたい。また、1月31日（水）午後2時から市長への答申式の予定とさせていただく。

6 閉会《政策・デジタル推進課長》

以上

議事録署名人 矢野悦子

議事録署名人 高橋正章